

# 付着生物ラーバ情報

## 1 ラーバ等の出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称:ハナ)、オベリア類(通称:クサ)、マボヤ  
ラーバやクラゲは見られていません(図2、図3、図6)。

(2) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

ラーバは蟹田沖で2.8個体/m<sup>3</sup>、奥内沖で60.0個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で385.6個体/m<sup>3</sup>、小湊沖で345.0個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で379.7個体/m<sup>3</sup>、川内沖で992.2個体/m<sup>3</sup>見られました(図4)。

(3) アミクサ(通称:クサ)

小枝は小湊沖で3.8個/m<sup>3</sup>、野辺地沖で3.9個/m<sup>3</sup>見られました(図5)。

## 2 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバは、今回も見られず、久栗坂沖の累積ラーバ数は1.2個体/m<sup>3</sup>と低い値に留まっている

ことから、今春の出荷時には大型個体の付着は少ないと思われます。

キヌマトイガイは、ラーバ出現数が増加してきたことから、付着量が増加すると思われます。

マボヤの付着は終了しています。

アミクサ小枝とオベリア類のクラゲは、3月まで出現する可能性があります。

なお、東湾のほとんどの水温ブイでは12月から翌年3月までの平均水温が4~5℃台になると予測されます。水温が低いとホタテガイ、ウミセミの摂餌量が低下するので、余った餌をキヌマトイガイやオベリア類が摂餌して、付着量が増加する可能性があります。

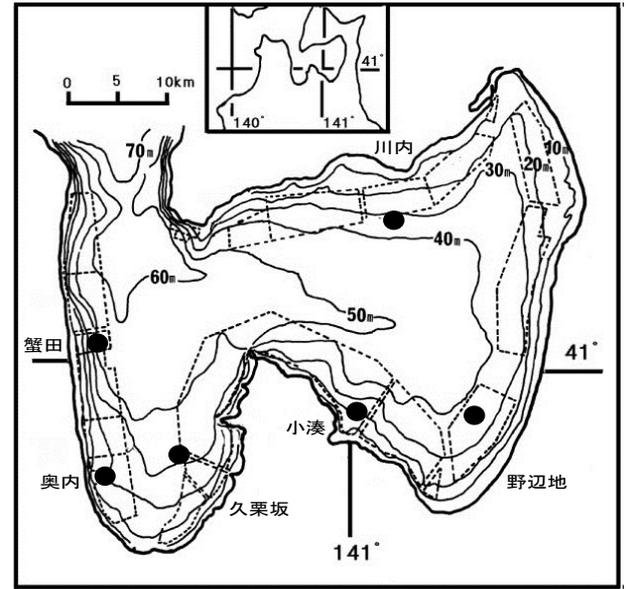


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラボヤ	マボヤ	キヌマトイガイ	単位:個体/m <sup>3</sup>	
						オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
蟹田沖	H30.2.23	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0
奥内沖	H30.2.20	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H30.2.22	0.0	0.0	0.6	385.6	0.0	0.0
小湊沖	H30.2.20	0.0	0.0	0.0	345.0	0.0	3.8
野辺地沖	H30.2.6	0.0	0.0	0.0	379.7	0.0	3.9
川内沖	H30.2.22	0.0	0.0	0.0	992.2	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

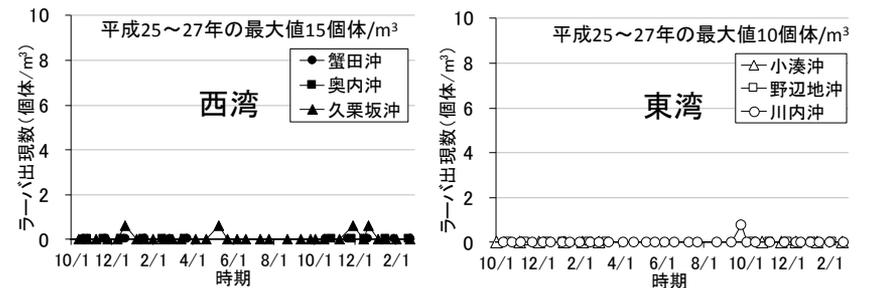


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

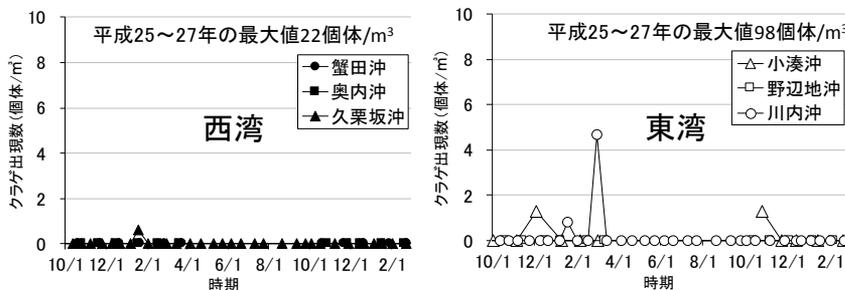


図3 オベリア類クラゲ出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

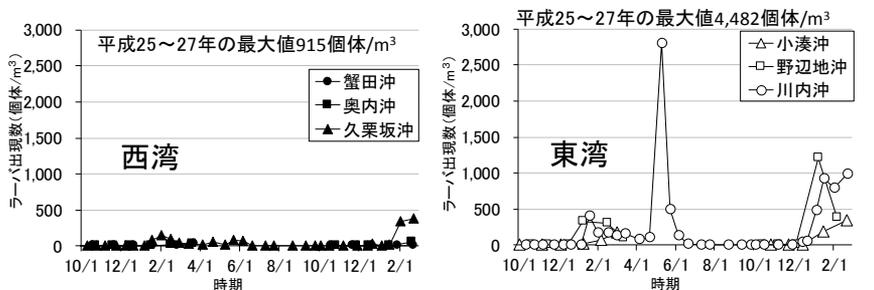


図4 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

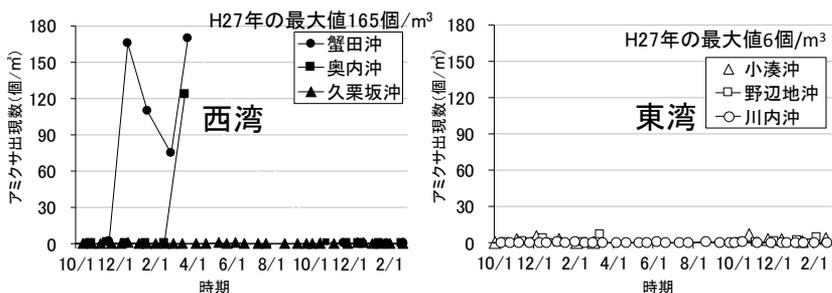


図5 アミクサ小枝出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

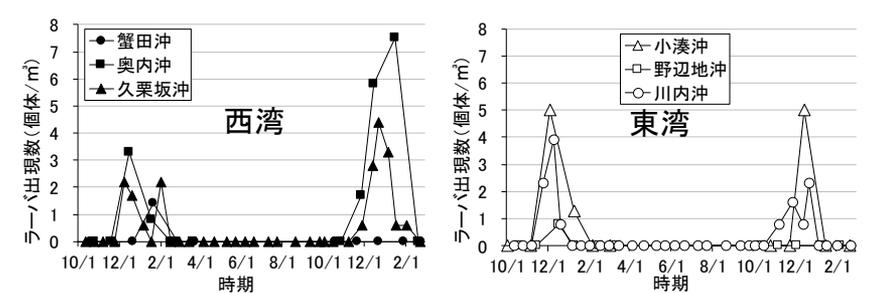


図6 マボヤラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

発行元: 地方独立行政法人  
青森県産業技術センター 水産総合研究所  
住所: 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10  
TEL: 017-755-2155 FAX: 017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL: <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=2184>

ホタテガイ採苗速報 携帯電話用QRコード (1)

海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード (2)

